

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
新約聖書概論	年間	4	月	1	踊 一郎
【テーマ】 ・新約聖書と旧約聖書の関係、新約聖書の成立過程と構成、各文書の内容と特徴、その豊かさを学びます。					
【内容】 ・ゲルト・タイセンの『新約聖書』（教文館）をゆっくり丁寧に学びます。					
【授業の進め方】 ・最初期のクリスチャンたちの信仰と生活を考えながら現代に生きる私たちのあり方にも触れたいと思います。毎回の授業の終わりに質疑応答の時間を持ちます。 ・一年の学びが終わった時、新約聖書が今までよりもっと身近で大切な書物になること、神学書に興味を持ち自分でゆっくり読めるようになることを願っています。					
【教科書】 ・ゲルト・タイセン『新約聖書』（教文館） 現在出版されていないので毎回レジメを準備します。					
【参考書】 ・日本聖書協会編『はじめて読む人のための聖書ガイド』 ・小友聡、木原桂二『1冊でわかる聖書66巻』日本キリスト教団出版局 ・佐藤研『聖書時代史 新約篇』岩波現代文庫 ・大貫隆『聖書の読み方』岩波新書 ・青野太潮『パウロ 十字架の使徒』岩波新書 ・富田正樹『聖書資料集』日本キリスト教団出版局					
【成績評価法】 ・後期にレポート提出					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
新約聖書釈義特講	年間	4	月	1	堀内 明
<p>【テーマ】 新約聖書本文を読み解き、解き明かしたものを自分の言葉で言い表す。 釈義したところからメッセージをつくる。 人生の諸課題をイエス・キリストにあって受けとめられるようになる。</p>					
<p>【内容】 授業の初めに、釈義の意味、目的、本講義のめざすものについてお話しします。 前期は、ヨハネ福音書を読みます。 後期は、コリントの信徒への手紙 一、二を読みます。 前期と後期、釈義したもののから 5分メッセージをつくり、相互に講評しあう時を持ちます。</p>					
<p>【授業の進め方】 授業プリント(A4 用紙 2 枚程度)を配布し、それにそって進めます。 授業は、受講者の発題をもとに、疑問・感想・意見を出し合い、 講師と受講者が対話を通してみ言葉の真理に開かれるように心がけます。</p>					
<p>【教科書】 「聖書教育」2024 年 1・2・3 月号、4・5・6 月号を使用。 受講者は 買い求めていただきたい。 注文・問い合わせは、日本バプテスト連盟 総務部 販売管理室 048-883-1091 まで。</p>					
<p>【参考書】 新共同訳聖書、2018 聖書協会共同訳聖書、2017 新改訳聖書 新約聖書翻訳委員会訳「新約聖書」岩波書店(絶版) 青野太潮著「どう読むか、新約聖書」ヨベル新書 その他 参考書は、授業の中で随時紹介します。</p>					
<p>【成績評価法】 前期と後期、それぞれレポートを提出していただきます。 詳しいことは 授業でお知らせします。</p>					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
ギリシア語	年間	4	月	2	石橋誠一
<p>【テーマ】 ギリシア語の文字を知るところから始め、最終的には辞書を引きながらでも自力で新約聖書をギリシア語で読めるようになることを目指します。</p>					
<p>【内容】 聖書の言語といえど、語学学習に王道はありません。文字に親しみ、声に出して音に慣れ、授業のない日でも毎日努力を重ねることが求められます。それでも、そこから得られる、聖書を原典で読める喜びの大きさは、計り知れません。 独習と違って授業の良い点は、わからないことをすぐ質問できる点です。わからないところはメールでもすぐ質問をして、読める喜びを共に目指しましょう！</p>					
<p>【授業の進め方】 面白くなくても、丁寧に教科書を進めていきます。毎週1講ずつを目安に進めていきます。一冊の教科書をきちんと学んでおけば、後々まで、わからないことを繰り返し参照する強力なツールになるからです。 同様に、辞書も早いうちから一冊引き慣れたものを持つことをお勧めします。辞書の引き方、どんな辞書があるかなどは授業の中で順次お話しいたします。 教科書に載っている練習問題などを利用しながら、その時々習熟度を確かめます。宿題の提出で授業への参加を確認しますので、毎回の提出をお願いします。</p>					
<p>【教科書】 大貫隆『新約聖書ギリシア語入門』(岩波書店、2004)</p>					
<p>【参考書】 織田昭『新約聖書ギリシア語小辞典』(教文館、2002) Novum Testamentum Graece: Nestle Aland 28th, 2012. ・一つ目はギリシア語辞典。他にも色々ありますが、手軽に使えるお薦めはこれ。他のものも授業の中で紹介しますが、できればこれを手に入れて、早くから引き慣れるようにしましょう。 ・二つ目は新約聖書ギリシア語原典。いわゆる「ネストレ」。28 版が最新です。他にも色々ありますが、しっかりと原典に付き合っていきたいなら、これをお薦めします。 ・文法書も他にたくさんありますが、まずは一冊仕上げることを優先したいので、ここでは紹介しません。</p>					
<p>【成績評価法】 期末試験、および毎回の宿題の提出状況によって評価します。</p>					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
キリスト教倫理	年間	4	月	2	黄 仁坤
【テーマ】 ・神の国を目指しつつも、この地上の国を生きるキリスト者の生活様式を学ぶ。					
【内容】 ・今は倫理的混迷の時代である。その背景には地域共同体の崩壊と共に、今まで支持されて来た地域共同体の規範も崩壊し、さらに、技術社会と経済及び文化のグローバル化によるモノであると言えるであろう。 ・多文化社会の中で「国民」と言う意識はどうあるべきであろうか。 ・上記の認識に基づいてキリスト者としての認識と生活様式を学ぶ。 ・つまり、終末論や教義に基づいての生活様式だけでなく、イエス・キリストに従う者として、ボンヘッファーの神学と信仰の実践を学ぶ。					
【授業の進め方】 ・下記の教科書と参考書から授業内容を抽出し、完全原稿として40分分を用意する。残りの30分は講義内容につき質疑応答。 ・授業中の質疑応答だけでなく、メールや他の通信手段によるやり取りをも歓迎し、それを授業中に他の方々とも共有する。					
【教科書】 ・現代キリスト教倫理(ボンヘッファー著、エーバルハルト・ペートベ編集、森野善右衛門訳)					
【参考書】 ①キリスト教倫理入門金子晴勇著 ②キリスト教倫理(H・E・テート著、河島幸夫訳 ③なぜ人間に倫理が必要か(W・パネンベルク著、佐々木克彦・濱崎雅考訳)④キリストに従う(ボンヘッファー著、森平太訳)キリスト教倫理学(近藤勝彦著)⑤キリスト教倫理Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ(パルト著、鈴木正久、上村伸、佐々木悟史訳)					
【成績評価法】 ・提出されたレポートで評価する。					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
教義学特講	年間	4	火	1	寺園喜基
【テーマ】 カール・バルトの『教会教義学』の中心と大要を学ぶ。それによって教義学的思考を養う。					
【内容】 キリスト教神学における教義学的なそれぞれのテーマを順次、テキストにそって扱っていく。					
【授業の進め方】 テキストを読みながら、解説し、かつ質疑応答を行う。質疑応答を通して理解を深めていきたい。そのために受講生の積極的な参加を求めたい。					
【教科書】 寺園喜基著『カール・バルト《教会教義学》の世界』、新教出版社、2800 円＋税、2023 年発行。					
【参考書】 カール・バルトの『教会教義学』の各巻。その他は必要に応じて、順次、授業の中で指摘する。					
【成績評価法】 講義の理解に関してレポートの提出を求める。					

科目名	期間	単位数	曜日	時限	講師
神学入門	前期	2	火	1	中條譲治
<p>【テーマ】</p> <p>・「神学」という学問の世界地図を広げ、神学が扱う事柄の多様さ、豊かさを知る。 具体的には、聖書神学、歴史神学、組織神学、実践神学という4分野の基本的なことを確認する（諸科解題）。それを通して、受講生個々人が、「神学」の世界地図における自分の立ち位置を知り、現在の信仰観が再吟味され、変革され、深化することを願う。</p>					
<p>【内容】</p> <p>・13回の授業の流れを以下のように予定している。基本的には、入門なので「広く・浅く」だが、トピックスで絞り込んで「深め」ることもしたい。</p> <p>●序論 1、神学とは何か？</p> <p>●聖書神学 2、聖書とは？（翻訳と解釈）3、旧約聖書、4、新約聖書</p> <p>●歴史神学 5、古代～中世のキリスト教史（公会議、修道院の歴史）、6、近世～近代のキリスト教史（宗教改革とバプテスト）7、日本キリスト教史（3つのバンド、信教の自由）</p> <p>●組織神学 8、教義学の概観（特に三一論、贖罪論）、9、近代の神学（正統主義から自由主義神学まで）、10、20世紀の神学（バルト、ブルトマン、パネンベルクら）、11、キリスト教倫理学</p> <p>●実践神学 12、礼拝と説教、13、教会の社会性（ディアコニア）</p>					
<p>【授業の進め方】</p> <p>・基本的には、プリントを用意し、それに沿って講義を進める。授業時間の最後には、できるだけ質疑応答の時も持ちたい。</p>					
<p>【教科書】、【参考書】</p> <p>・受講生が購入すべき「教科書」は無い。しかし、各分野の本を、多く紹介するので、受講生各々が興味を持ったもの、必要と思ったものを買って揃えて欲しい。</p> <p>・キリスト教書店にある『本のひろば』（月刊）を手にして欲しい。それに紹介される新刊の神学書についての批評を、理解し、読みこなせるようになって欲しい。</p>					
<p>【成績評価法】</p> <p>・前期末、レポート提出による評価。</p>					